

2020年1月7日

株式会社電通国際情報サービス

ブロックチェーン技術で地域農産品の生産履歴と取引状況を可視化する、 スマート農業データ流通基盤「SMAGt」を開発

～トレーサビリティの向上で自治体・地域商社等による農産品ブランディングや輸出拡大に貢献～



株式会社電通国際情報サービス(本社:東京都港区、代表取締役社長:名和 亮一、以下 ISiD)は、農産品の生産履歴と取引状況の可視化を目的としたスマート農業データ流通基盤「SMAGt(スマッグ、SMart AGriculture Traceability)」を開発したことをお知らせします。「SMAGt」は農産品の生産履歴から出荷、流通、販売までをブロックチェーン技術を用いて記録するデータ流通基盤で、地場農産品のブランド化や、食品偽装の防止、輸出拡大に取り組む自治体や地域商社等の農業関係者向けに提供を予定しています。現在、事業化に向け、複数の自治体・企業の協力を得た社会実装の検証を実施しています。

■背景とねらい■

地方経済の活性化に向け、多くの自治体において農産品など地域資源のブランド化を支援・促進する動きが拡大しています。昨今では政府の支援も拡大し、地域資源の市場開拓の司令塔として地域商社の設立も活発化しています。今回 ISiD が開発した「SMAGt」は、スマート農業技術の進展により取得・蓄積が可能となった農薬・堆肥等の使用状況や収穫時期・量の予測等の生産管理データはもとより、出荷・流通・販売データまでを、ブロックチェーン技術による耐改ざん性の高いプラットフォームで可視化できる仕組みです。これにより農業事業者は、消費者に対し農産品の安全性や生産者のこだわりを信頼できる情報として提供したり、輸出規制に対応したデータを、効率的に取得することが可能となります。

ISiD では、2016 年より宮崎県綾町と共同で、ブロックチェーンを活用して有機農産物の生産・流通履歴から個々人の消費行動までを記録・可視化するシステムの構築に取り組み、実証を重ねてきました。今回、この知見をベースに、各種農業支援アプリとの連携や取引状況の可視化機能を新たに実装したスマート農業データ流通基盤「SMAGt」を開発しました。

■「SMAGt」のしくみ■



■社会実装のための検証事例■

事例 1) 福島県広野町振興公社

福島県広野町振興公社は、東日本大震災及び福島第一原発事故で被害を受けた農業と観光の再生に向け、町の新たな特産品として国産バナナの栽培に取り組んでいます。2019年10月5日に実施された「ふたばワールド 2019」において、安心・安全の根拠を SMAGt のデータを活用し、来場者の方へアピールしました。(詳細は[こちら](#))



<図: ふたばワールド 2019 での販売の様子>

事例 2) 鳥取県鳥取市

鳥取市は、地域の農業生産基盤強化の重点課題のひとつとして、高収益を実現する「梨リレー栽培モデル」の確立に取り組んでいます。2019年10月25日、11月8日に大阪の中之島フェスティバルタワーにて開催したとっとり旬菜マルシェでの販売実験において、スマート農業化の取り組み、トレーサビリティ情報、そして鳥取市梨ブランドをアピールしました。



<左: とっとり旬菜マルシェでの販売の様子>



<右: QRコード利用イメージ>

事例3) 株式会社地域商社とっとり

地域商社とっとりは、マレーシアへの梨の輸出促進に取り組んでおり、2019年11月29日から12月8日までの期間、マレーシアで梨の販売を実施しました。新しい市場開拓のためにスーパーマーケットのバイヤーと消費者へ、こだわりの栽培情報と鳥取梨ブランド価値をアピールしました。



<図: マレーシアでの販売の様子>

■今後の計画■

現在、事業化に向け複数の自治体・企業の協力を得た社会実装の検証を進めています。

iSiDは、今後も農業IoTプラットフォームの構築や、生育環境等のデータ活用のためのソリューション・ビジネス開発等に取り組み、日本の農業の生産性向上ならびに競争力強化に貢献してまいります。

【製品・サービスに関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス Xイノベーション本部 ビジネスインキュベーション部 佐野

TEL: 03-6713-6124 E-Mail: g-SMAgt05@group.isid.co.jp

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社電通国際情報サービス コーポレートコミュニケーション部 赤瀬、李 TEL: 03-6713-6100 E-Mail: g-pr@isid.co.jp

関連プレスリリース

- ・ 消費の未来を変える、世界初の「エシカル消費」実証実験をフランスで実施 ～消費行動を SDGs17 ゴールに関連付けて可視化、トークンエコノミーの実現性を実証～(2019年4月24日)
<https://www.isid.co.jp/news/release/2019/0424.html>
- ・ ISiD、ブロックチェーンで農産物の生産・流通・消費履歴を保証するトレーサビリティ実証実験を開始 ～宮崎県綾町と都内レストランを結ぶ「エシカル消費」の真正性を担保～(2018年5月17日)
<https://www.isid.co.jp/news/release/2018/0517.html>
- ・ ISiD、農業IoT事業のベジタリアアに出資 (2017年9月8日)
https://www.isid.co.jp/news/release/2017/0908_1.html
- ・ 有機農業発祥の町、宮崎県綾町の野菜にブロックチェーン技術で管理した生産情報を付与、販売 ～3月25日(土)にアークヒルズで開催する「ヒルズマルシェ」に出店～(2017年3月22日)
https://www.isid.co.jp/news/release/2017/0322_1.html
- ・ ISiD、ガードタイム、シビラ、ブロックチェーン技術を活用して地方創生を支援する研究プロジェクトを立ち上げ ～第1弾として、宮崎県綾町の有機農産品の安全を消費者にアピールする仕組み作り～(2016年10月19日)
<https://www.isid.co.jp/news/release/2016/1019.html>

■電通国際情報サービス(ISiD)について

ISiDは、「HUMANOLOGY for the future～人とテクノロジーで、その先をつくる。～」をビジョンに、社会や企業のデジタルトランスフォーメーションを、確かな技術力と創造力で支援しています。金融、製造、ビジネスソリューション、コミュニケーションITの4領域で培ったソリューションの提供に加え、テクノロジーや業界、企業、地域の枠を超えた「X Innovation(クロスイノベーション)」を推進し、顧客、生活者、社会の進化と共存に寄与するソリューションを生み出し続けます。詳細は、[公式WEBサイト](#)をご覧ください。

* 本リリースに記載された会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。